

農具便利論 中

農商務省
農商圖書
第 五 冊
共 五 冊

和書門
八二〇六
三六六六
類號函架冊

庫文閣内	
内閣文庫	
番號	和 8406
冊數	3 (2)
函號	183 266



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

農具便利論卷之中

大藏永常著

諸國

作おの根際

小培を多く耕す

て横さ板小土板よりの重き
松の土かひゆるすおれん

培

土板の具

勞を多くとせ

横さ板

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

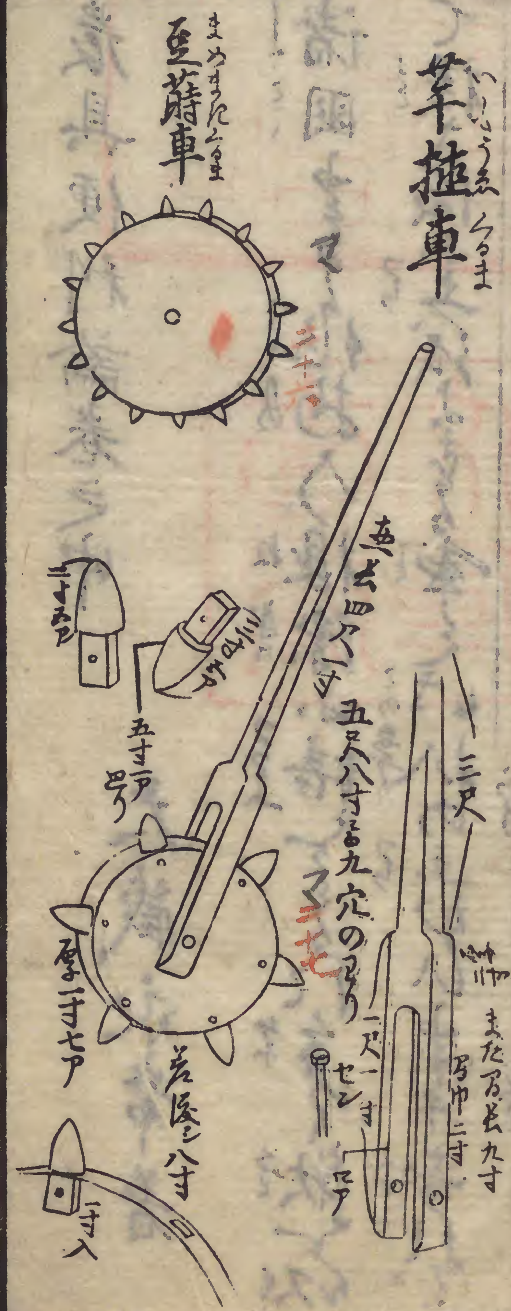
おのり

農具便利論

黄葉園

易り長し畿内より後には綿糸根の新秋又を
批把の葉おとし筋を引肥し入乾くして其後土
と元へとも寄るふ衣より秋のかけにけ増成
りこの寄るは種くして莫大なるものなり

草推車



諸方おて大豆と種ふ穴つものも穴つもの其穴へ
種子と大豆覆ふと園東おの筋と切らし舟に
舟付生得きり対る引青より毛の種子大豆換
毛のり系筋辺よてハ草と種ふ穴付車を用て筋の通
と向ハ押しゆげ車入洗も穴けり種も大豆
向の尺寸廣狭もろくはし其穴へ種も大豆
土を覆より大豆と種ふ車入洗とをくけり送
大豆と種もハ草と種ふと送るべし

つちあらい
土を浚



このつちあらいの具は、
土を浚ふに用ひしものなり。
其の形は、長尺の柄に、
先端に鉄製の刃を附し、
刃の幅は、約一尺に及ぶ。
此の具は、古くから用ひ
られてきたものと見ゆ。

○麦の穂を刈り取るに用ひしものなり。
其の形は、長尺の柄に、
先端に鉄製の刃を附し、
刃の幅は、約一尺に及ぶ。
此の具は、古くから用ひ
られてきたものと見ゆ。

○此の具は、土を浚ふに用ひしものなり。
其の形は、長尺の柄に、
先端に鉄製の刃を附し、
刃の幅は、約一尺に及ぶ。
此の具は、古くから用ひ
られてきたものと見ゆ。

○此の具は、土を浚ふに用ひしものなり。
其の形は、長尺の柄に、
先端に鉄製の刃を附し、
刃の幅は、約一尺に及ぶ。
此の具は、古くから用ひ
られてきたものと見ゆ。

○此の具は、土を浚ふに用ひしものなり。
其の形は、長尺の柄に、
先端に鉄製の刃を附し、
刃の幅は、約一尺に及ぶ。
此の具は、古くから用ひ
られてきたものと見ゆ。

○此の具は、土を浚ふに用ひしものなり。
其の形は、長尺の柄に、
先端に鉄製の刃を附し、
刃の幅は、約一尺に及ぶ。
此の具は、古くから用ひ
られてきたものと見ゆ。

農具傳承論中
三
黄葉園蔵

○批把の葉

筋切おも用ひらる

うり新狀筋切

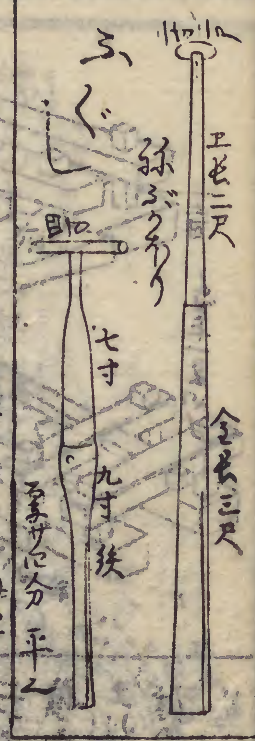
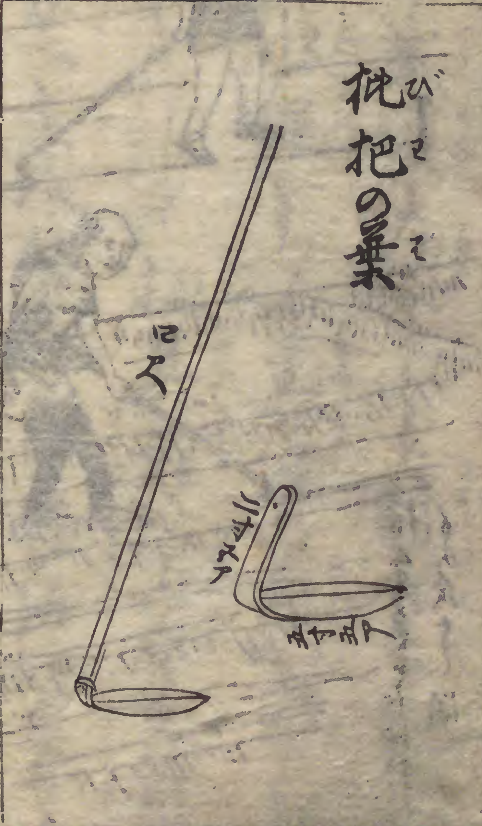
一用とせむ

耐ものよりそい方便利の事なり麦類葉子

おの根不肥とて小溝と切し新狀同扱入用

とるんあつ土性入替れよはは具と用也一勞

さるるゆいさるるれ



○は長後ハ平房胡

産葱多く坂田ハ

序より御少事起

み十本下中と堀ときには系大坂と近老いは

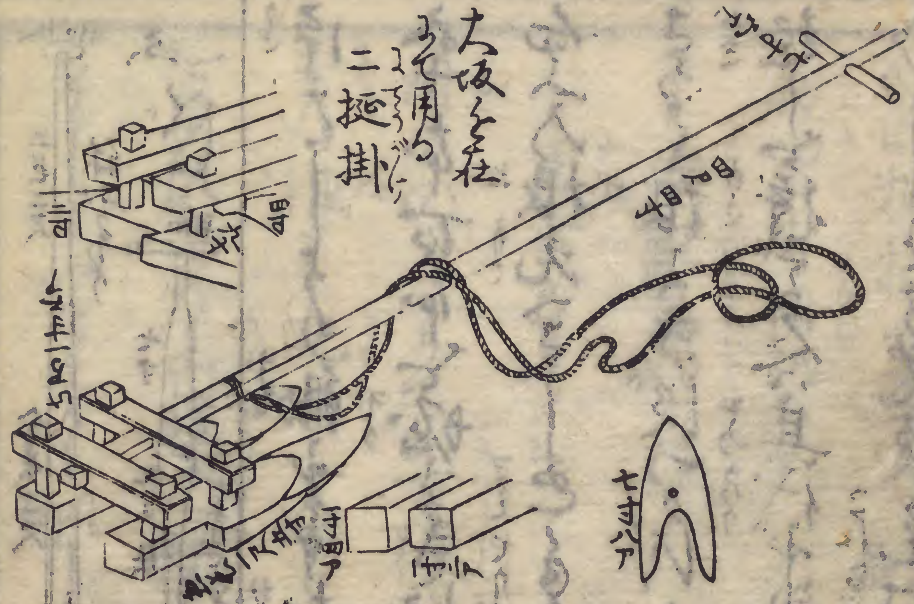
向ふ根元一さ一也も元一むけハ土くハろぎてさう

さるる根よきはつらびぬけてきてて便利なり堀揚

起しと持ざる人其代むる長し万葉集入事

うーとよ免るる色は美の束るるきを

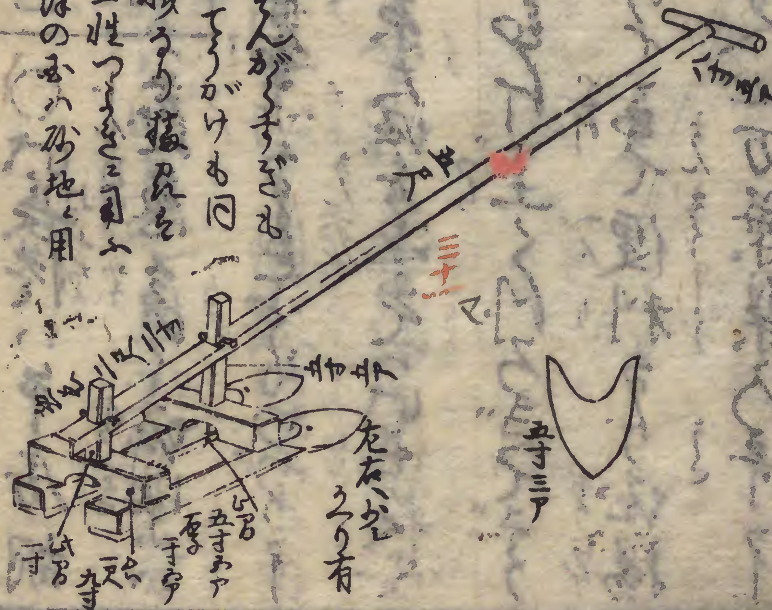
大坂を在
りて用ひ
二挺掛



播刈
器用

めんがらす

めんがらす
にてうがけも
扱ふり播及を
土性つるを
はのふり砂地用



綿の中
二挺掛

のてま
ま



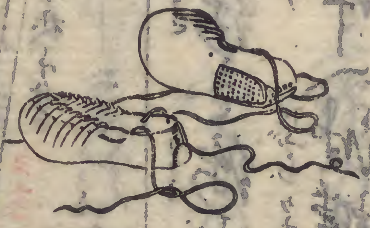
農具便利論

農具便利論

市におどく用ひ種々な物あるもの先づ令
 どの肉をと支是ふたききりはの縄とよ
 持込へて洗ふ足ぬき事なげきばこそ仕
 業もたどり玉極ま室の具あり

綱貫

綱とよき
 牛馬の草と
 わてぬき



代根 上十五分後
 中八分
 下五分

○綱貫は畿内中々農
 人専用ゆふふふ系
 大坂の町家やとと
 八尾賣野菜屋馬士

其外小用とよきもの或は其家の丁火よきとよ
 鞋と履とろく寒中履ぬもたらけろく事と
 畿内農家冬にこれの畑入仕業とよふ勿論
 二里三里とけろひきろもの雨天もたらけろく
 さよわりの事と足びふと予ふ武農吏徳て
 つくく吾綱貫と九月よりより月十日に一足
 價銀八やうん式式足と事ふくけ代金十六文
 まり然る氏名と履とよき九月より翌三月まで

凡八冬の費おそ 毎日のしんどくもきて 足袋もたきざれを
ほめては古た足袋をすこし新よこしとく事
るまじも凡八冬目斗の費おそ だつ網焚の代はけ
費は日おそ ともる足袋焚の寒まよと雨と足袋凌ぎ冬朝
と起て耕作おそ 小切にも足れとて専ら事なげまばたの
づらとらとらと足袋おそ 履ききてゆ何ハや日のちと
て暖おそ 下おそ 足袋考へぬおそ のどとらとらとら一日おそ
其おそ 足袋考へぬおそ のどとらとらとらとら一日おそ
其おそ 足袋考へぬおそ のどとらとらとらとら一日おそ

大いあゆみあり又毎日足洗湯もいふは
遠いには誰のこれと用ひざるを予をさし
よりと一毎小きかへしとたむ大いなる便利
年とたに水もぬれ日とぬれつらと小便利
る事と足ゆ○色と用ひるをさるるは
雲園おそ 勿論東園おそ 用ひる足袋の足大和を猪の皮おそ
より小切と遠く農家も専ら用ひる足袋の皮おそ
本もおそ 足袋もたきざれと猪の皮おそ 五でけり

あしおけ
足桶
を
もって
大根を
洗う
図



つみゆき
強費
成

農事
かせ
図



○麦或ハ扱入
 庭仕上ル葉小
 まーアしたる状
 多ふと箱中
 入るのよき風
 吹小き一上てお
 一づねをば



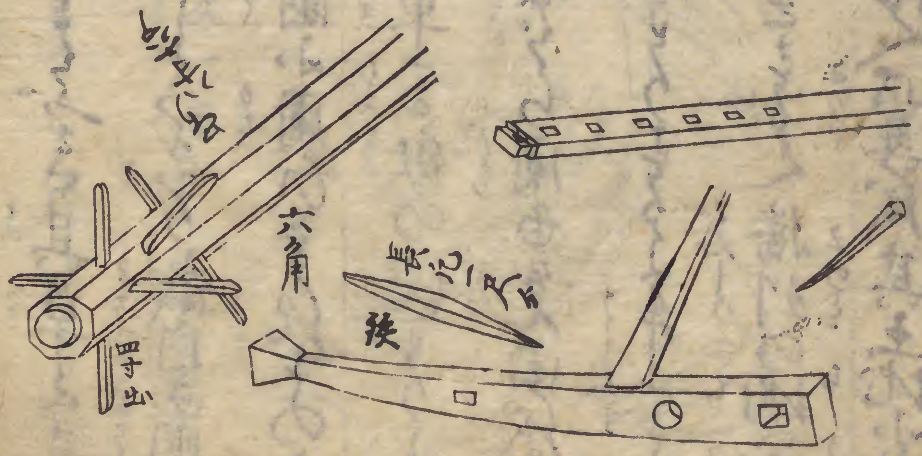
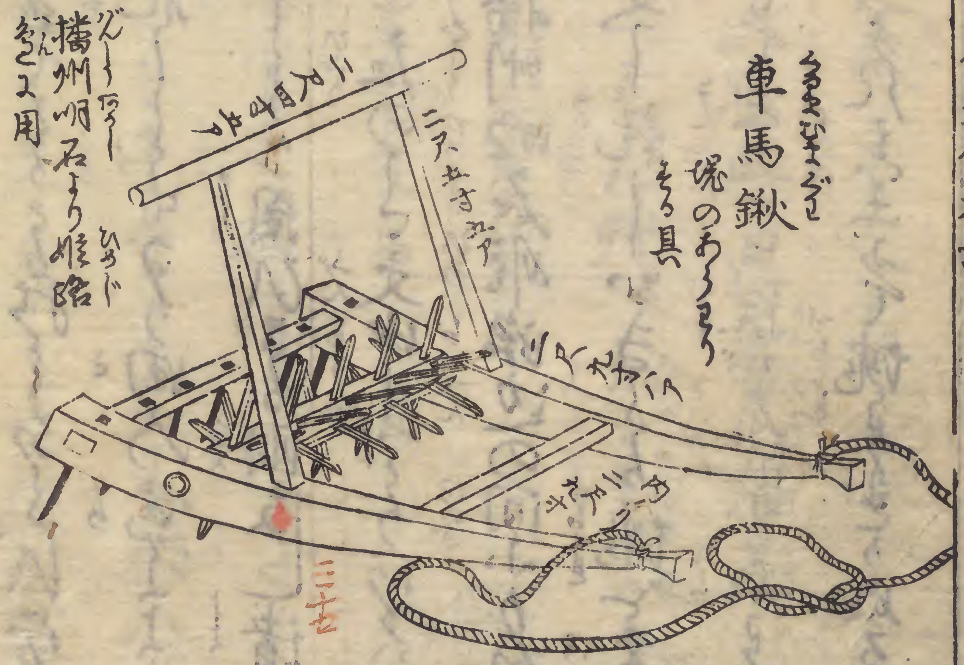
風起送

扱入下小から葉ハ風吹きて下へ落て扱

差と日る之能く小風がーも吹さる何ハ見合さる
 と多一其さき小と送一枚とさる小扱其中
 と多は少て少一扱きてま一扱はー入申
 手扱と扱にて扱ひ入るーと打つとまれば
 風起て右端より落と入扱と差よく吹日る
 之を扱ふさるの扱とけきさるはけさる風
 ぬけくひよ風起さるさる東海乃筋光
 とか扱さるさるは東西園少かき事

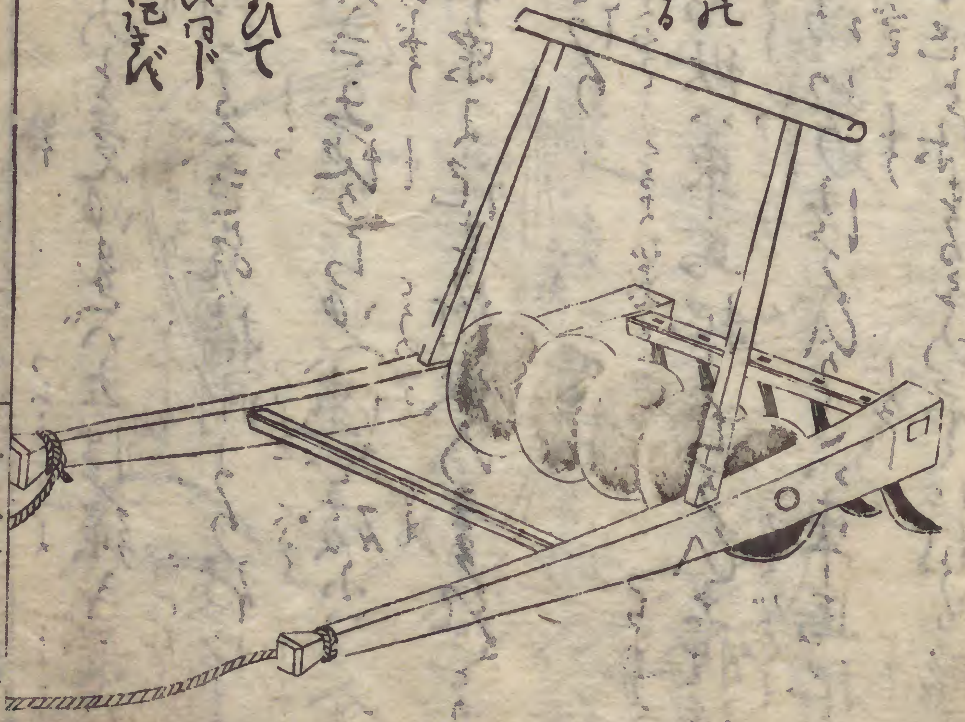
車馬鈹

塊のあらし
する具



薬研把之図

五寸よりきり
つらきもの
具



車馬鈹よりあらし
する具
細工もバツ法と記さば

○希に祀を筋切の糸下に畦とつる事といふり
 乞を接州の糸下と専ら用ふ其外の糸
 おで、おま、馬が、おま、人の畦は、おま、おま、おま、
 先畑一、おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 づぶ、おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 おま、おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 へ、おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 尺、おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 尺、おま、おま、おま、おま、おま、おま、

通、おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 ○又把と半、おま、おま、おま、おま、おま、
 つ、おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 一、おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 おま、おま、おま、おま、おま、おま、
 二、おま、おま、おま、おま、おま、おま、

○以報ハ隠波國

入報うる

乙卯年の

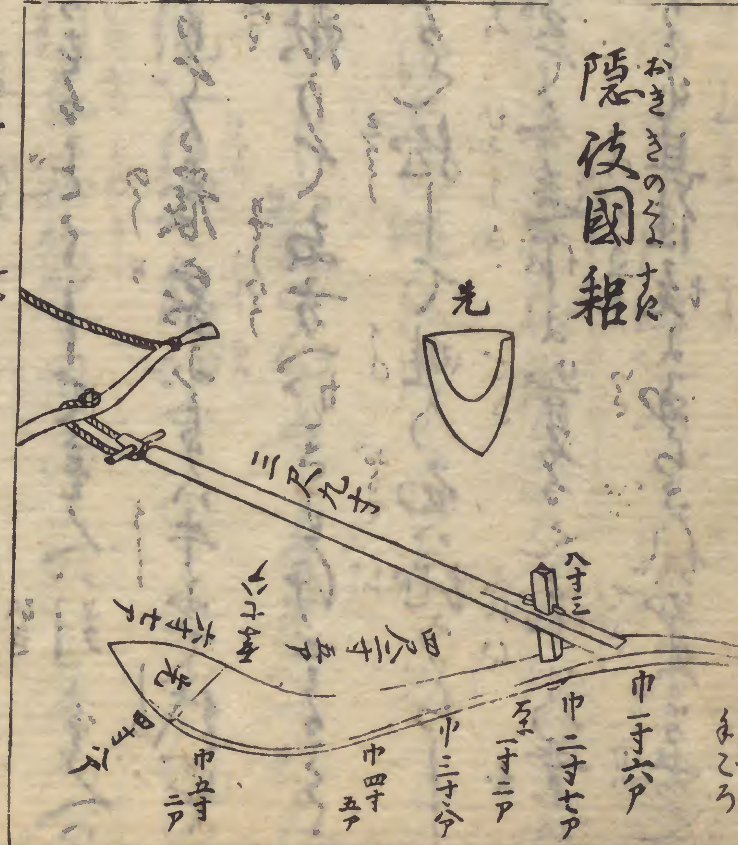
丹波國由良

漆小遊び

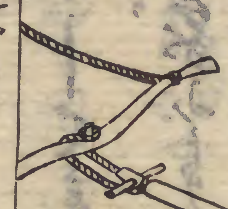
里人

く吾

討求



隠波國報



討求ハありし中
 水立りて彼國小
 見せぬハ其法ハ

と圓ノ牛小轆セリ田畑を耕スル底石此多
 越ハ多クあり越一ハ由良白堂に
 素報ハおろし

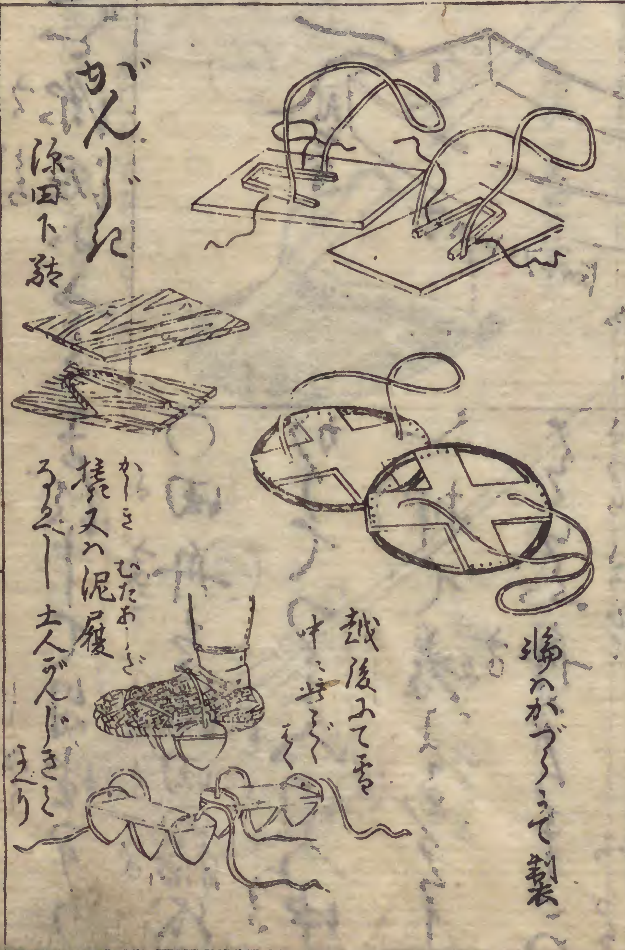
○櫛ハ漆田

小入ノ耕

とほしま

桐子入実播

箱カ

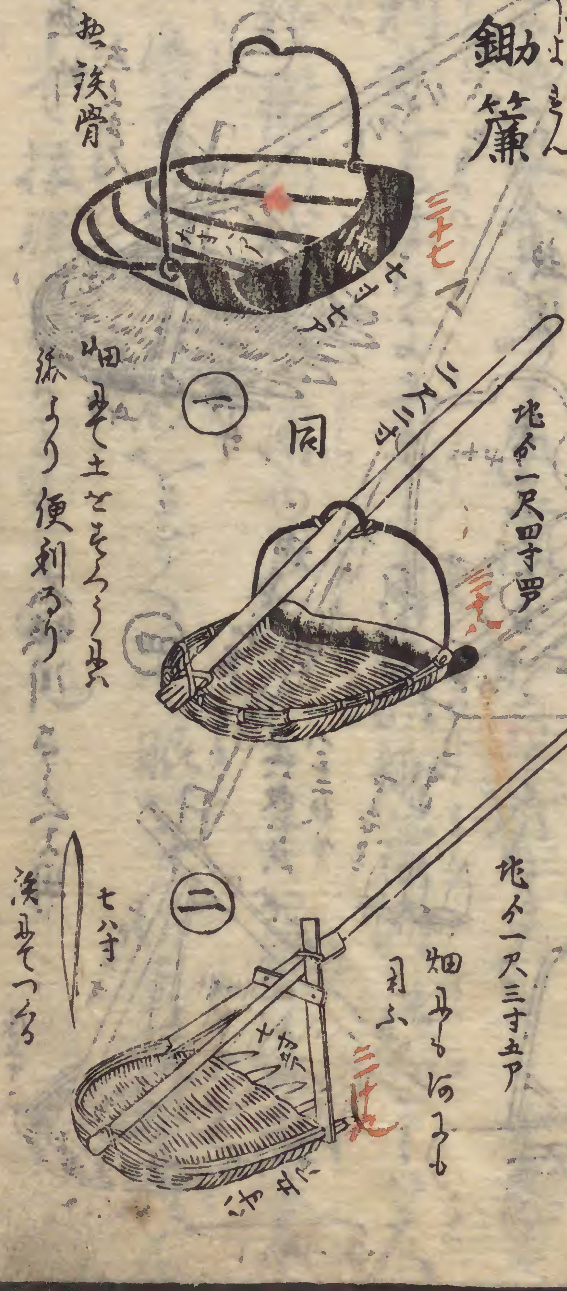


引て足と深泥をかきこまひいて曳き送り



○田舟を深田の糠
かりてつゝ入田の中
と押入者よあるや
をらふ舟なりきこ
田舟を下りて地
よく水に對する
の土とのせりぬき

引てせりぬき
水に用ゆ又水
舟と通き
舟と教本
其竹入上
引用ゆに重宝





御簾の固くしておつて変じらぬことを志しむるは

更に見及ひざる事なるを不もけり候て爰に
 其大御を以て先大坂城を以て砂がらの土に
 坪六寸又二寸も不入御簾を用ゆむ先手
 よき五金とつてい價よかつたはまがく米を
 利方と専らよすま一用也御簾の結切き大
 神淋の代りに用也土性よよりて秋より仕業
 一倍も熱て土砂とまじりて服さげよるに
 中て振群らるるその也

○舟二小回まる船簾ハ竹骨入中一鉄骨と交
 一五金と付其餘ハ布より多敷一用也其用ハ
 一と同一と下也土普信ホムハ一少ふき方
 一細る言むの土紙ワキ車一なるに佳なり

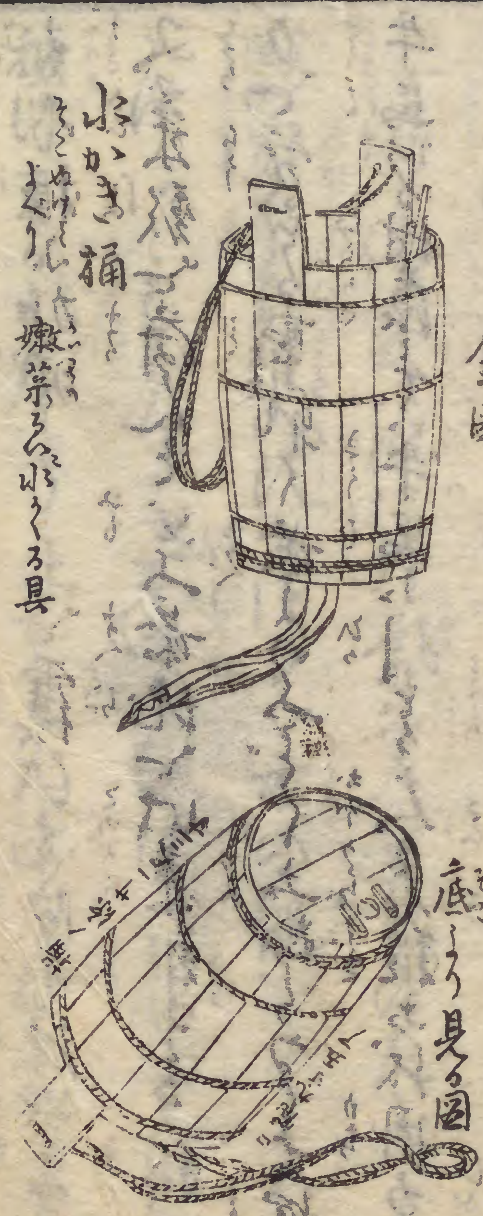
○舟三小回まる舟船簾ハ金鉄布より多敷
 一舟て多程砂川ささくりに力と勞甚且多
 一よく又海さざれ土と揚る船只多程用一感用
 ○舟四小回まる柄の長き船簾ハ舟二より記と船簾

小形らお似れども大形より大坂淀川筋の後
 るに、砂舟小糸てけ船簾と水中より一
 柄と志りと持おふよとくひて掃よ引上げ舟
 小舟よりして後る事おひきき一おどて
 砂とさしゆるふおて便利
 ○舟五小回まるハ江戸にて専ら用也船簾
 てお体鉄と敷一河の流涯と後扱揚る多
 事と室と大小兼通りもつてまくの平らとせ用也

このげんごへりへりらすこ
 い源ふ多湯素報の用中へ紐合の麦小培了
 淋どりて中と折れらげある肋の麦の根よ
 麦小培るべ小畦ありて畦よ一畦あつて土とよまらる常ねるは
 前中へん定小畦に只けいひと透り
 泡るとい素報少る畦の廣狭小まらひて大素報
 又は田をすたの式は枇杷入素報入茶文の大小と見合
 うらうら大と小をり
 園のより素報の改よはるぐ下の繩とくしる腰よ
 うけらとまらりよ一通りむけは淋どりてうら
 折げきるよりむらうく土も深く折らきた右の

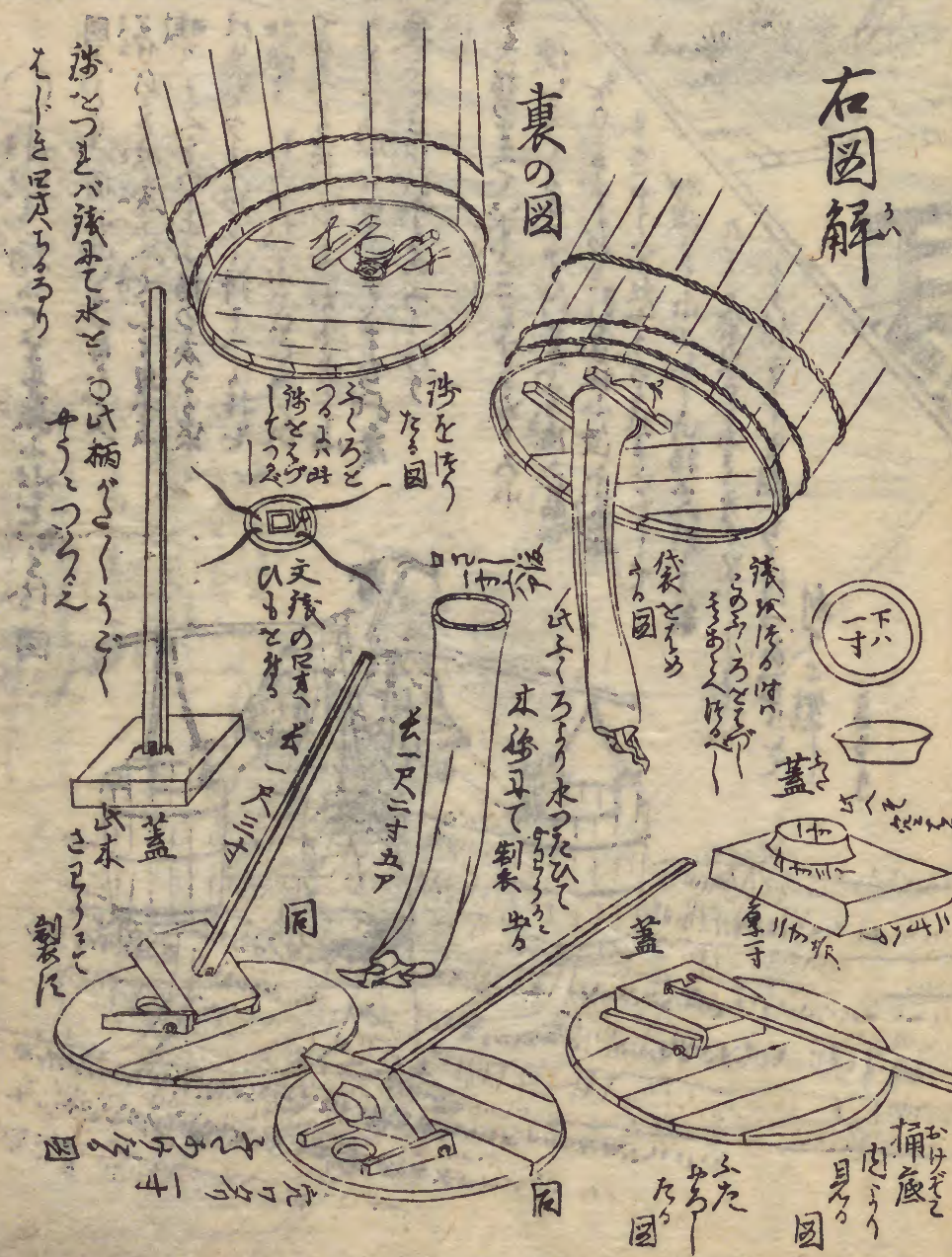
麦の根小加減よく土と覆ひる際も能く芽まき
 又素報と荷んとどふ茶地とい素報少り耕せば
 力と労も事少く亦よく土むらうて
 牛馬の村居る牛馬小引る大素報お用中へ
 麦のまき一にまきす下ハ素報はらひハ麦のと
 田に法園ハ大素報馬淋までまき牛馬
 もまら地ハ用ひる大ハ便利なり耕と牛馬
 ほうてうらとれとけいひはまても麦れ中へまら

以源入多湯兼糶と用ひきまことこの也
 ○土がり紙和をからとまきの改小はるぐく入
 繩とまぐ一筋付て受みの股とらせて小兒お引と



右図解

裏の図



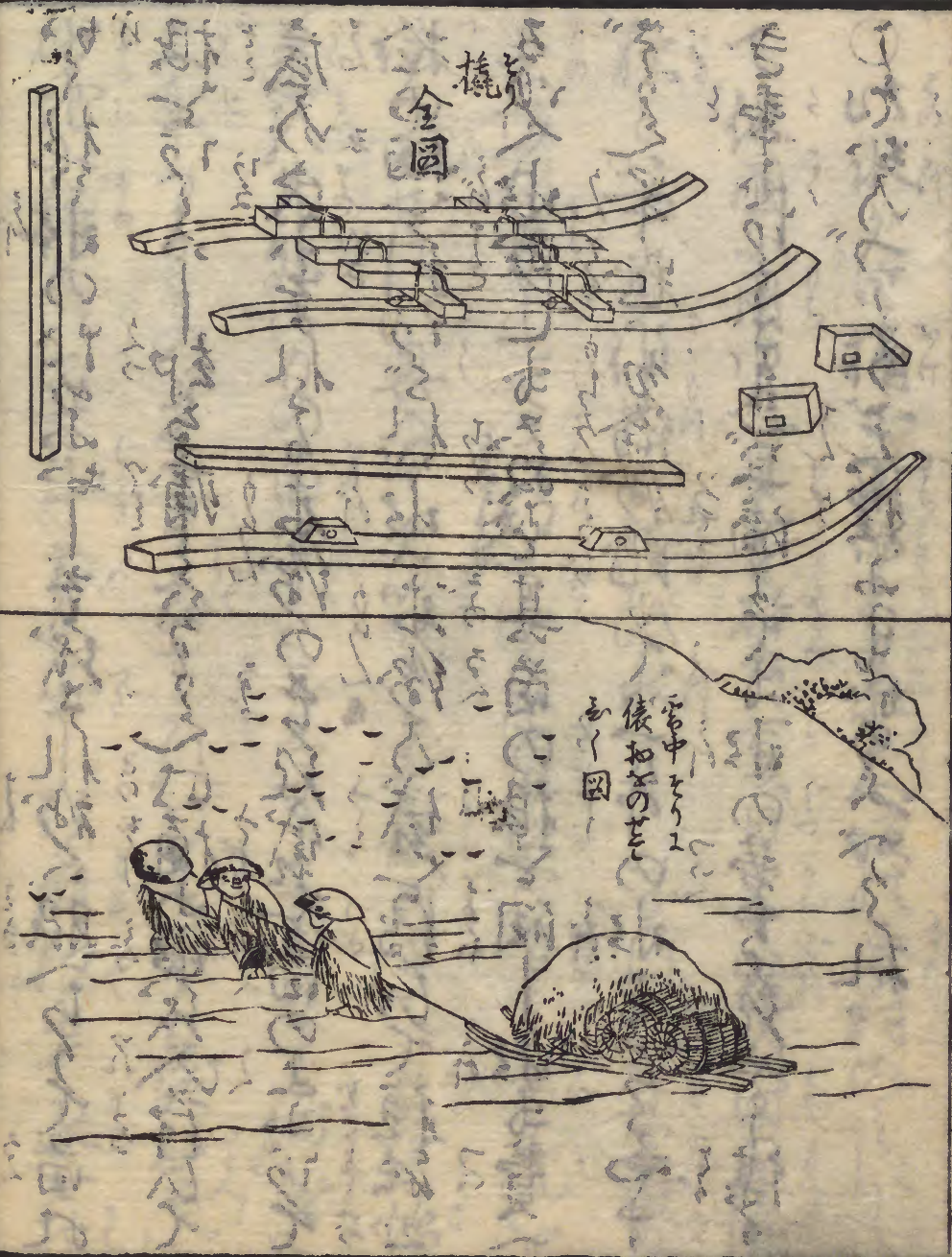
農具傳利論中
 二十一 黄葉園式

○水け桶と用ゆる系大坂れを村のこり
 て他國小用ゆと見せむ云々夏日旱魃入河分倫
 秋といども作ぬし陸ひ水けけがしは旱魃
 老より熟して三粒よをん農家多く葉蔬と
 作りせむし具さくて叶さるる歳内よては藍本係
 葉其外のの苗いすこ二三すよきらるる河いす
 大率うらよのそそ年高きしは生れがら民盛心
 砂地小種るこす斗きとせら耐物そ水とお

か水の水のたぬおき成るし砂へ眼へらそ苗れ
 根とくくく却る痛さるるこは桶小水成入行ひて
 底の穴おきれる本砂のせれ成と苗の上おりて
 拾の桶とけらるる水は本砂へ成と傳ひて種成
 る火水少しもなぬと其苗の根と潤し水も費へ
 ざりて旱魃勿論砂地そ一井の水とらるる
 きまふらるる一滴よそ水の養うれや傳る
 してちんづら天狸ふもかのふべけれ

農具傳承記

二二二 水田農具

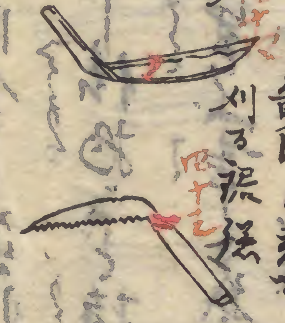
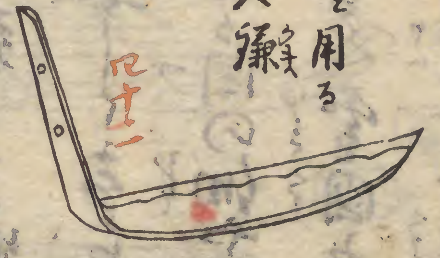


○右の圖入るるは公羽奥州越後等の雪國ゆゑ多く
 用るる儀抱きど持とらびがた重た可はけそらに
 のせりきり事と我又たけ代り人とのせ又たけ
 のせり引とらぬ未其國おけさるは其取つら
 うと事一とあらざれども雪國もるは其取つら
 ぬて亦る國の細やうと見えたり時寫して並ぬる
 こと記さる雪國は遠り用ひきりば重たの用を
 へ其取ら其國其土地よりとらぬとらぬ

農具便本論中

二十九 耕田圖

江戸をこ用る
刈草大鎌



鐵内より表へ
刈る法強
ハ係出
草こつ
ハ
ハ



右図の如く鎌ハ太きハ江戸をこ用る廣中を

地ノ横より草を刈る地ノ草刈り立うがらち

きよて塵をとりて換へるに刈ておほし

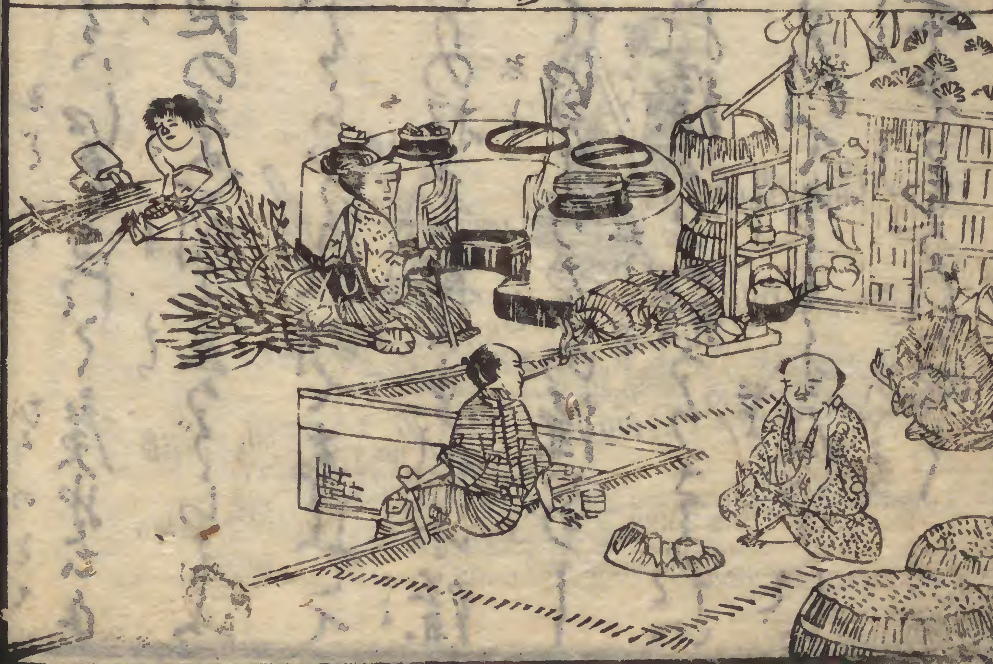
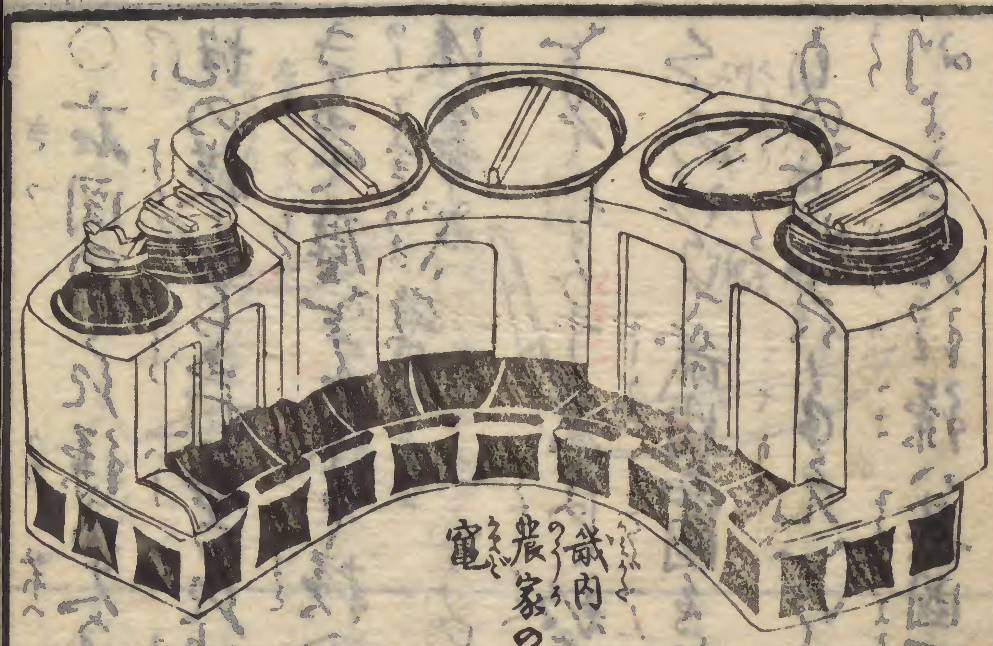
後第ニハこの杯を換へるに刈ておほし

とて刈りたるは教て江戸をこ用るの鎌お

とみらうて鐵内西國をこ用る人形うらさうた

りのと刈りたるは元とて刈りたるは元とて

刈りたるは元とて刈りたるは元とて

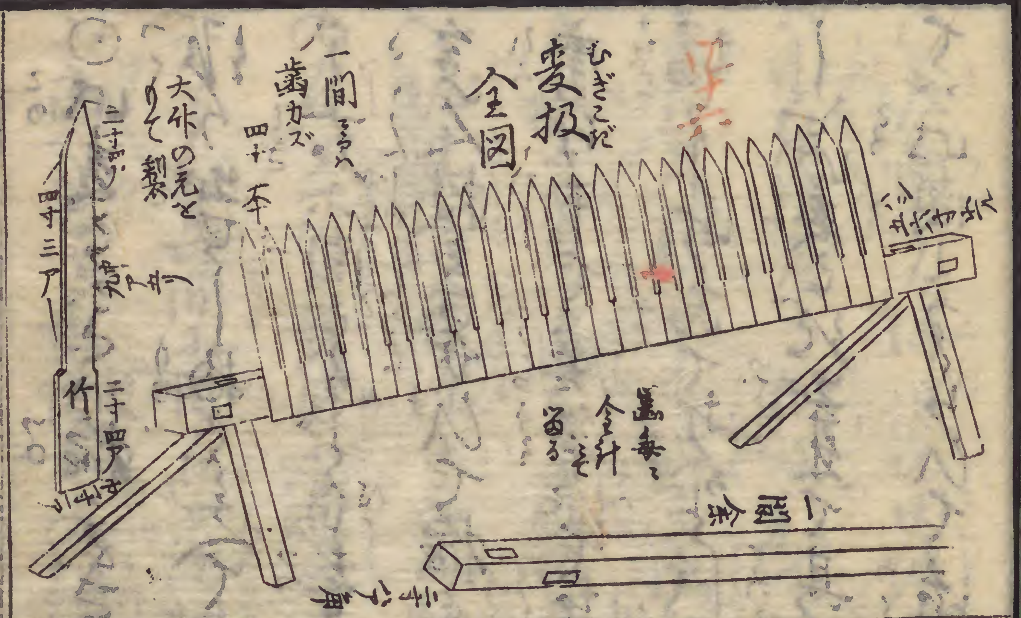


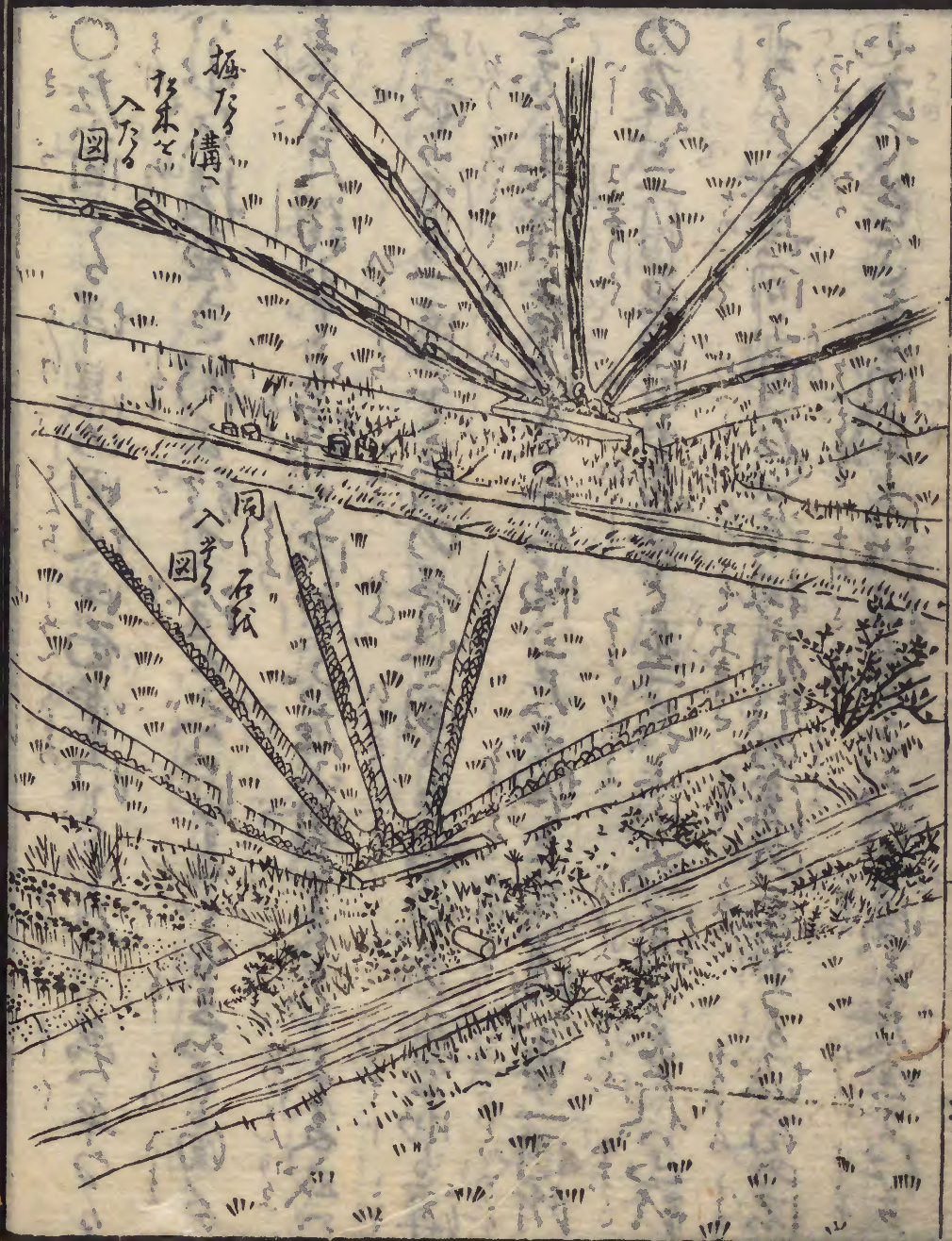
○電ハ家毎小作りて日使用ゆきそのをれども
 其圓不ゆき并不并作りは古より其へ海
 移る事なりハ新の農具不便なり事と見え
 之ゆき一年下総下地色の農家ハ海
 作り事作り其色の農家ハ海つと見え
 之のうき晴冬の庭に日を生とくつと下地
 端をあげて多く葉紙焚事と作り
 之ゆきゆき看取及具又ハ此と北霜の冬

〇又畿内色の農家は庭小築ける竈は右
 小園より多く其庭小築り三ヶ月形小築其中程
 小居りて焚付は両端も一肘小焚ける積りといは便利
 〇又此の農具小築りざれども農家日用の物なり
 〇爰も多し山家小築り新澤山も是れ地楯なり
 多細きけども小築り不きては竈も利方よくは
 〇此の年とほりりては太くは失り九州より

〇たこの年とほりりては太くは失り九州より
 〇又此の農具小築りざれども農家日用の物なり
 〇爰も多し山家小築り新澤山も是れ地楯なり
 多細きけども小築り不きては竈も利方よくは
 〇此の年とほりりては太くは失り九州より

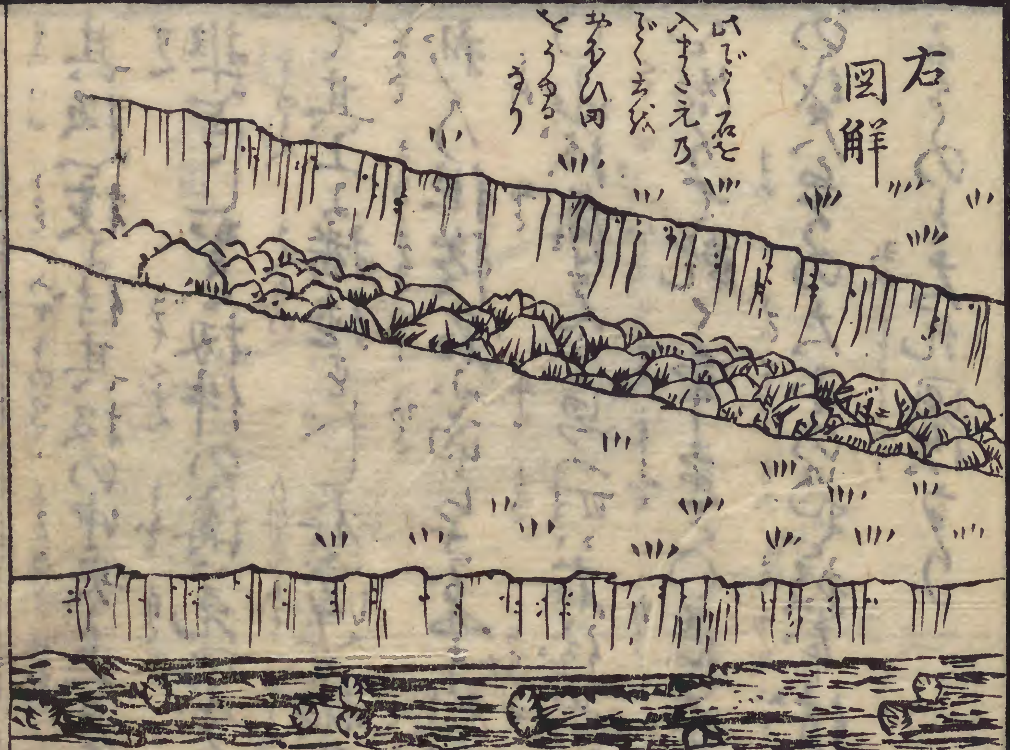
振扱る物候て仰りおせと見及び三番て其使と回るに權
 とどむに便利なる事とほつらにきて今三番と作らば
 其やまは後多水も攻り圓中も弘くはり小僅二年と經
 して價三石支程の高いせし事大に往付たよりと
 きりぬる金く極これ便利たひる事らりかたき
 の幸にたの農人らまうらよ用ひむとてまらぬと
 やめる人よ醫師と用ひるにひりから人の
 にもおよぶとまらぬの流誣べうびの器具



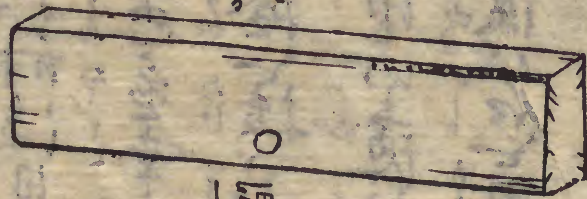


右 図解

いづく石七
八寸元乃
いづく石
ササハ四
さうり



石のうね不変ハ
木とまりきり
いづく石



一尺三五寸

アツサ
五寸

其板へ横よけ其板の中央より大さきすゝみ寄置位の穴の
 推さしを扱件の溝元のとくよとさせ埋て平地に
 て其上に播種をせしむ溝に板をよけ付後日耕す時
 新の板を石小高らさるるを此の板に付也並事肝要之
 ○水は落ると思ふ時右付也この板の捨て扱ば水地
 と溜りて乾く事速く○是又石不自坐の土地に松栗杯
 の或大さの大小の物と板を付て土を覆は石を用いて
 るものとは丸く作り

